

富山県で生息が確認された天然記念物イタセンパラ

著者	田中 晋，長田 芳和，小谷 昌樹，南部 久男
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	14
ページ	143-145
発行年	1991-03-15
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=580

短 報

富山県で生息が確認された天然記念物 イタセンパラ*

田中 晋¹⁾・長田 芳和²⁾
小谷 昌樹³⁾・南部 久男⁴⁾

はじめに

イタセンパラ *Acheilognathus longipinnis* はコイ科ナグ亜科に属する日本固有の淡水魚であり、絶滅の危険があるために、1974年に種指定の国の天然記念物に指定された。また、1989年には、環境庁のレッドデータブックの絶滅危惧種に指定されている。生息地は、淀川の河川敷にある通称ワンドとよばれる池と濃尾平野及び富山県とされて、淀川と木曽川では生息調査が行われている（紀平ほか、1977；建設省中部地方建設局木曽川上流工事事務所、1979）。富山県における最も古い確実な記録としては、山下(1937)⁵⁾ により、放生津（現在の富山新港）、小杉下条川及び氷見があげられている。また、中村(1969)は、1957年と1958年に放生津湯の西の高岡市と牧野姫野と新湊市堀岡で生息を確認している。1958年には、高岡高校生物部によって放生津湯周辺で採集され、その標本は富山市科学文化センターに2個体、高岡高校に1個体保管されている（南部・高橋、1987）。富山県では、その後全県下を対象とした魚類相調査が実施されているが（田中ほか、1976、1978）、イタセンパラの生息は確認されていない。したがって、1958年が最後の記録であり、富山県では絶滅したと考えられていた（富山県、1978；木村、1980）。しかしながら、1989年11月2日に魚類調査を行っていた近畿大学農学部3回

生小谷昌樹、吉岡晃、中山義夫、宮本信一の諸氏によって、イタセンパラと思われる淡水魚1個体が富山県で発見され、その場に再び返された。そして今回、筆者らが現地調査を行った結果、明らかにイタセンパラであることが判明し、本種の生息が約30年ぶりに富山県で確認できたので、簡単に報告する。なお、保護の必要上生息地点は公表せずに報告する。

調査は、筆者らの他に横山達也（大阪教育大学大学院生）、稻村修（魚津水族館）、佐藤久三（元富山県総合教育センター）、福田保（富山女子高校）の諸氏に協力していただいた。また、氷見市教育委員会浦勇仁氏には、調査に立ち会っていただいた。これらの方々に厚くお礼申し上げる。

調査結果

調査は、1990年10月16日の午後と17日の午前に行なった。生息の確認は、堤防からの目視と手網及び投網による捕獲によった。捕獲した個体は雌雄の確認と写真撮影の後、放流した。

1) 調査地点の概要

イタセンパラの生息が確認された河川の川幅は約7m、水量は少なく水深は中央部の深みで約30cmであった。水門が設置され、その周辺部はコンクリートの護岸が施されているが、水門より上流は土の護岸である。水際上部から堤防にかけ、ツルヨシ、ススキ、エノコログサなどのイネ科植物が生える。底質は泥で、水流は緩く、水は濁っていた。川底はほぼ平坦で、水草は生えていなかった。水温は10月16日午後4時で16.5°C、pH は7.05であった。

2) イタセンパラの確認

約50mほどの範囲内でイタセンパラの生息

* 富山市科学文化センター研究業績第108号

1) 富山大学教育学部 2) 大阪教育大学 3) 近畿大学農学部 4 回生 4) 富山市科学文化センター
5) 山下(1937)は、中村(1934)がイタセンパラを記録していることを報告している。

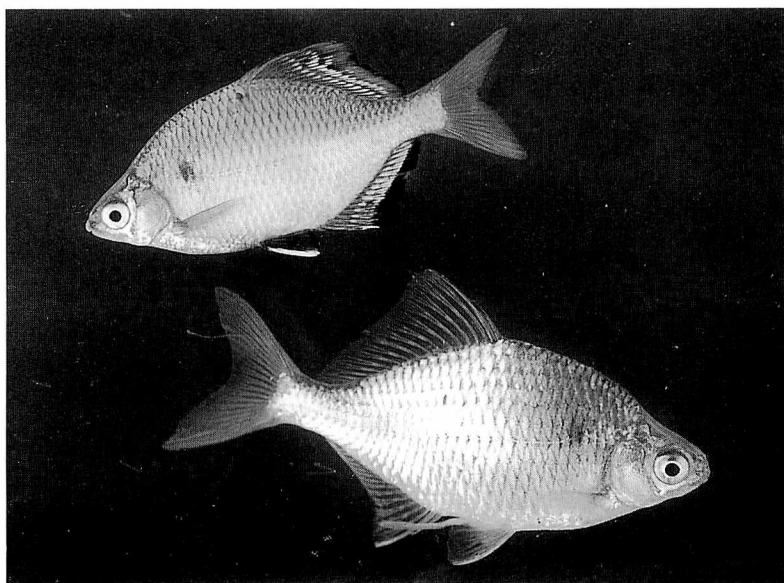


図1 確認されたイタセンバラのオス(上)とメス(下)

が確認された。捕獲されたイタセンバラはメスが多く、メスとオスの比率は約10:1であった。イタセンバラは、タナゴ類の中では高い体高や、オスの婚姻色の特徴である体側の赤紫色と、尻鰭、背鰭の蒼白色の縦条及び腹鰭の蒼白色斑が鮮やかであった(図1)。メスは産卵管が伸びていた。メス1個体の体長は77mm、全長は96mmであった。

10月16日午後3時から4時頃にかけて、水深約10cmの浅瀬で、婚姻色の鮮やかなオス1個体とメス1個体が繁殖行動をしているのを堤防から容易に確認することができた。観察終了時に、オスがメスを誘導し、定位していた地点からドブガイを採集したが、鰓腔内にイタセンバラの卵は産みつけられていなかった。繁殖期は10月から11月とされており、婚姻色が鮮やかなことより本地域においても繁殖期であると考えられる。

また、魚をよくつかまえている近所の方(40才代の男性)の話では、本種を通称「ベト」と呼んでいるとのことである。山下(1937)

は、「中村先生による」として、本種の方言「ベト」を上げている。

3) イタセンバラ以外の魚貝類の生息状況

イタセンバラは、主にイシガイに産卵し、卵は貝の体内で発生することより、イシガイの生息はイタセンバラの生息の必須条件である。川底には、イシガイとドブガイが確認できたが、特にイシガイが多く見られた。約10個のドブガイの貝殻を数mmほど開いたが、タナゴ類の卵はいずれの貝からも確認できなかった。イシガイの貝殻は開くのが困難であったため、産卵状況の確認は行わなかった。本河川には、イタセンバラ以外の魚類では、同じタナゴ亜科のアカヒレタビラ、ヤリタナゴがみられ、他にギンブナ、タモロコ、オイカワ、モツゴ、メダカなども見られた。タナゴ類では、アカヒレタビラが最も多くみられた。

保護について

富山平野の淡水魚類相は、河川改修による

コンクリート護岸化などによって、生息環境が悪化し、20～30年前と比べかなり変化してきている。特にタナゴ類をはじめとする、緩やかな流れを好む魚類は激減している。このような状況のもとで、イタセンパラが発見されたことは特筆に値する。三面コンクリート化の河川改修が行われなかったことが幸いしたのであろう。イタセンパラは絶滅の危機にひんしており、淀川においても近年激減していることが報告され(紀平、1990)、保護増殖のための母貝の研究も行われている(宮下、1985)。調査と並行して、早急な保護対策が必要あることは言うまでもない。

今回は、調査地点を限定した簡単な現地調査にとどめた。1990年11月より富山県文化課が中心となり、イタセンパラの生息調査が実施されており、生息状況等の詳細は別途報告される予定である。

文 献

- 建設省中部地方建設局木曽川上流工事事務所、1977. 木曽川のイタセンパラ. 67pp.
- 紀平 肇, 1990. 淀川のイタセンパラの激減とその原因・速報. 淡水魚保護, (3): 12.
- 紀平 肇・長田芳和・鉄川精, 1979. 魚介類. 淀川河川敷生態調査報告書, pp.75-111.
- 木村英造, 1980. イタセンパラ. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(淡水魚類) 全国版, 財団法人日本自然保護協会, pp.69-75.
- 中村守純, 1969. 日本のコイ科魚類. 財団法人資源科学研究所, 455pp.
- 中村誠喜, 1934. 富山県産魚類調査.
- 宮下敏夫, 1985. イタセンパラの保護増殖試験. 昭和59年度大阪府淡水魚試験場業務報告, pp.41-48.
- 南部久男・高橋征五郎, 1987. 富山県放生津潟産イタセンパラについて. 富山市科学文化センター研究報告, (11): 135-136.
- 田中晋・殿山美喜夫・宮崎重導・小林英俊・水野正尚, 1976. 富山県における淡水魚類の分布. 富山大学教育学部紀要, (24): 195-206.
- 田中晋・殿山美喜夫・宮崎重導・小林英俊・水野正尚, 1978. 富山県の淡水魚類. 富山県の陸水生物. 富山県, pp.253-306, 7pls.
- 富山県, 1978. 環境庁委託第2回自然環境保全基礎調査動物分布報告書淡水魚類, 35pp.
- 山下博三, 1937. 富山県の淡水魚略記. 富山高校博物同行会会誌, (3): 42-52.